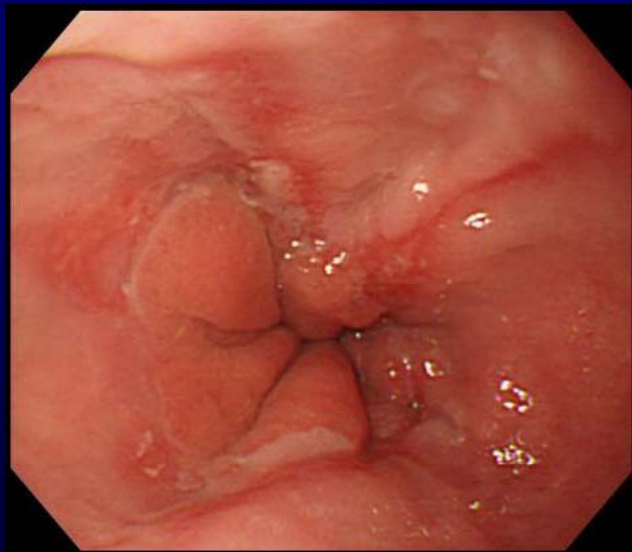


## GERDの定義

『胃食道逆流症(GERD)』は、胃食道逆流による身体的合併症や、逆流関連症状により健康な生活を障害しているものを指す。



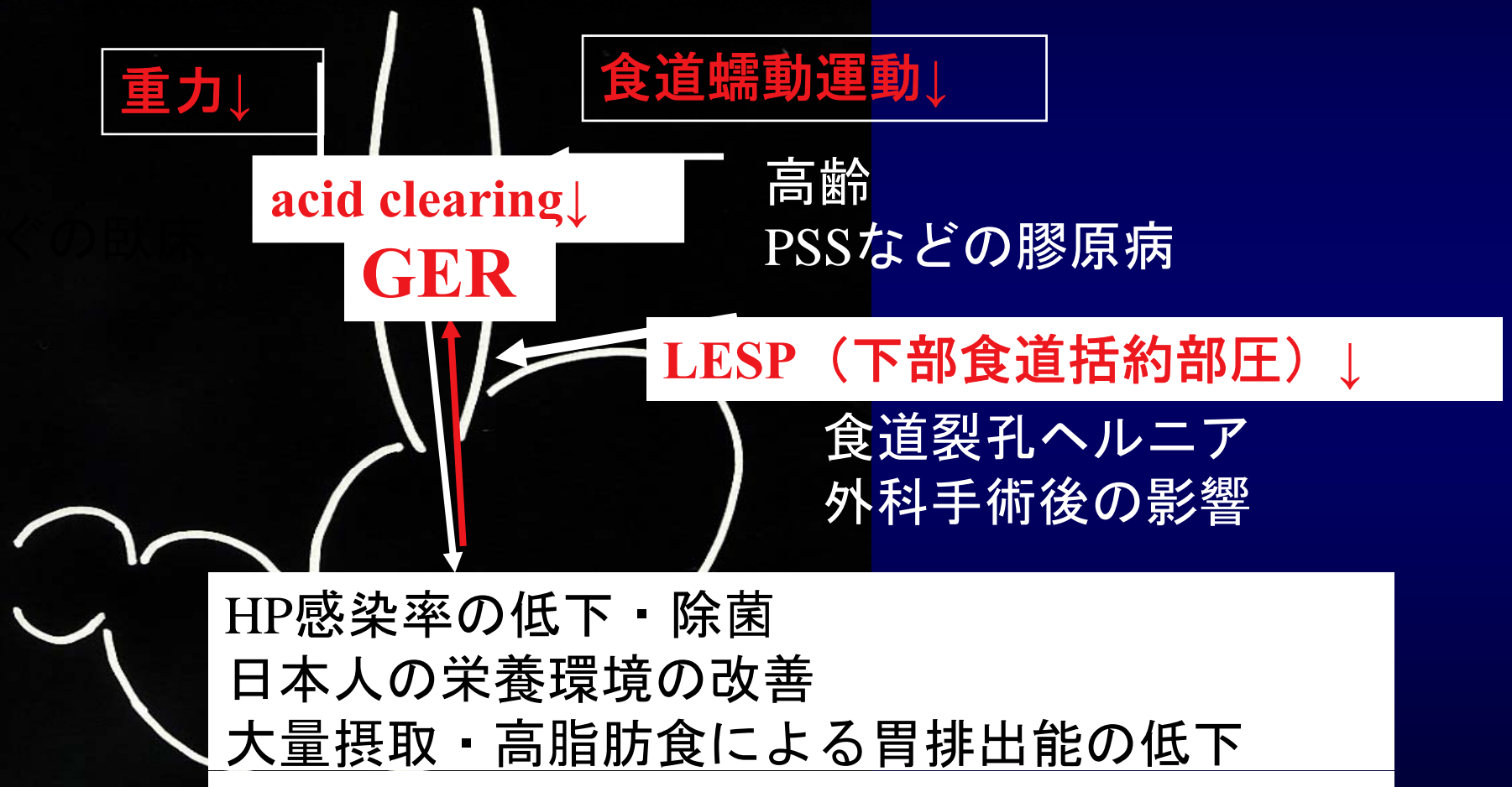
2002 GERDガイドラインワークショップより

# わが国におけるGERDの頻度

報告者	観察期間	頻度
土谷ら	'76~'85	1.6% (482/30,609)
櫻井ら	'78~'97	2.0% (2,341/119,887)
中村ら	'86~'97	2.2% (849/39,295)
Maekawaら	'93~'96	5.2% (119/2,278)
岩切ら	'96~'98	16.3% (977/6,010)

# GERDの病態について

食



# GERD発生に関わる病態

---

食道裂孔ヘルニア

*H. pylori* の非感染および除菌

萎縮の少ない胃粘膜

高齢

肥満

胃排出能の低下、幽門狭窄

噴門切除後

---

# *Helicobacter pylori* とGERDの関係

## 1) GERD患者

胃粘膜萎縮が無い。

*Helicobacter pylori* 感染率が低い。

## 2) *Helicobacter pylori* 陽性患者

*Helicobacter pylori* を除菌をすると3~20%程GERDに成る。

# GERDの診断方法

- ① （自覚症状を中心とした）問診
- ② 内視鏡診断
- ③ 食道酸逆流の診断

## GERDの内視鏡診断

主に、びらんや潰瘍性病変の大きさ・分布によって決定

1978 Savary-Miller classification

問題点：合併症である狭窄やバレット食道が含まれる

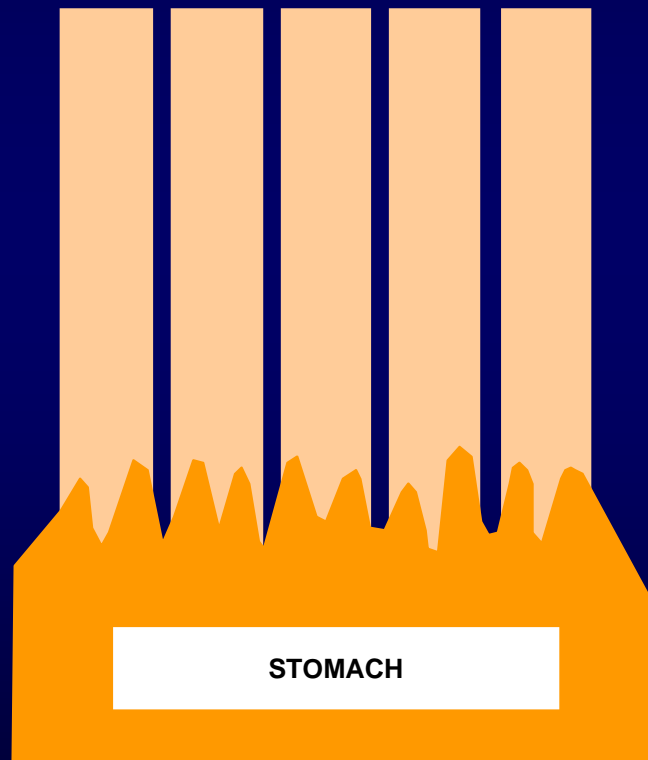
1994 Los Angeles system

内視鏡的に確実に判断できるmucosal break（粘膜障害）という概念を導入し、Grade A~Dに分類  
狭窄・バレット食道は付随所見として別に記載

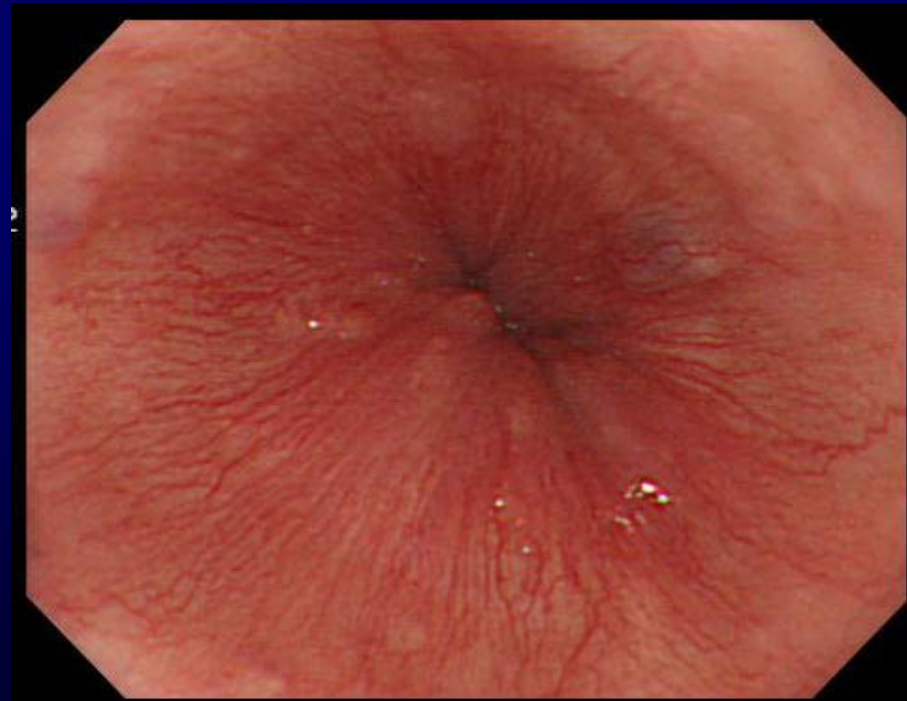
1999 星原分類 (Los Angeles system 改)

治療経過の評価のため、ほぼ正常群・微小変化群を追加

## Grade N (normal)



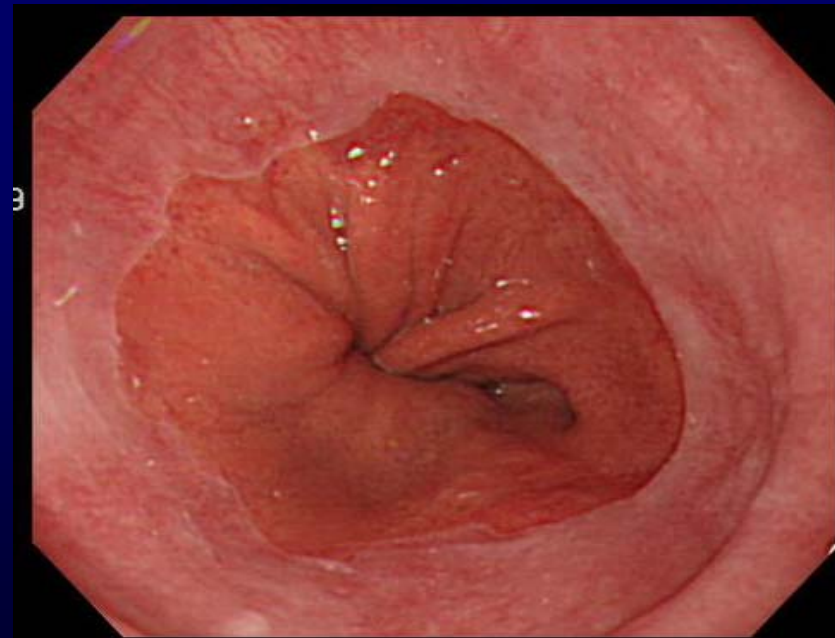
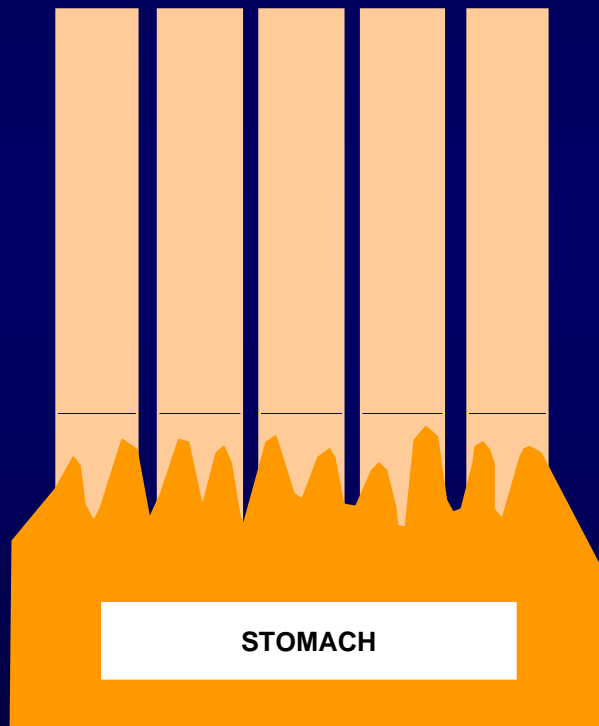
內視鏡的正常食道粘膜



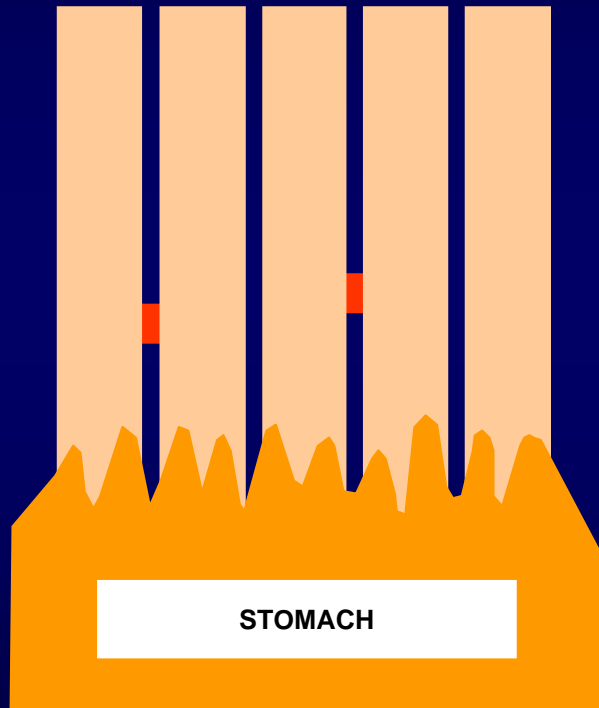


## Grade M (minimal change)

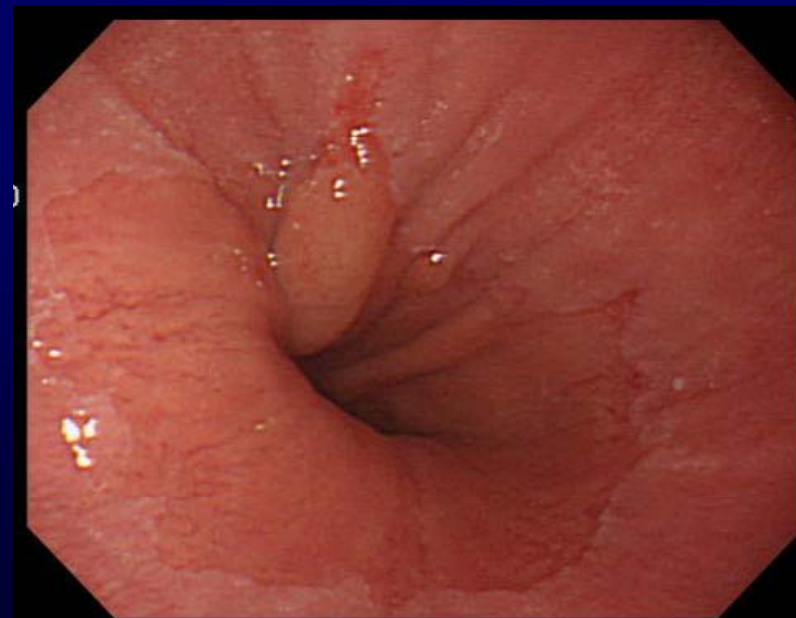
内視鏡的に明らかなびらん・潰瘍を認めないものの、発赤あるいは粘膜下柵状血管透見性の低下を示すもの



## Grade A

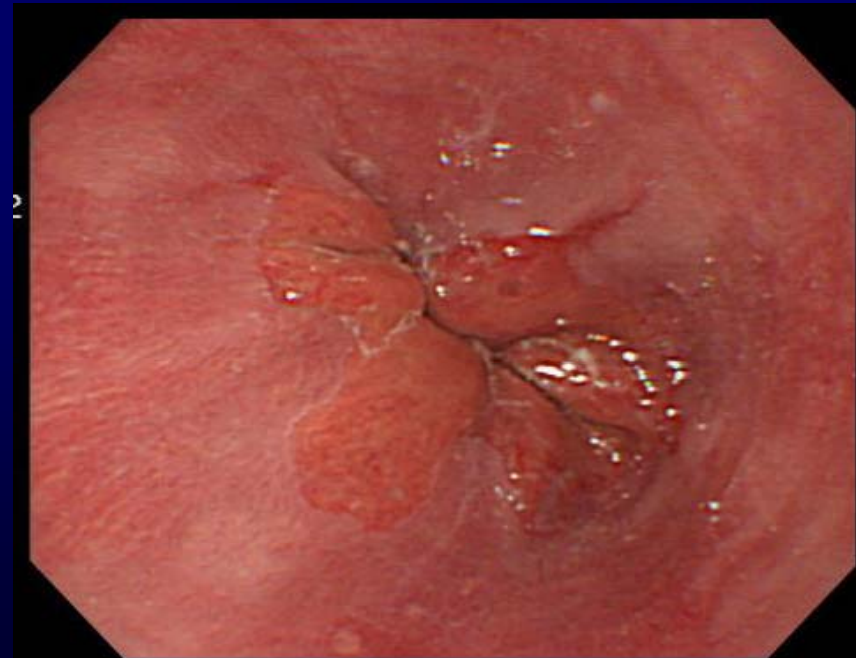
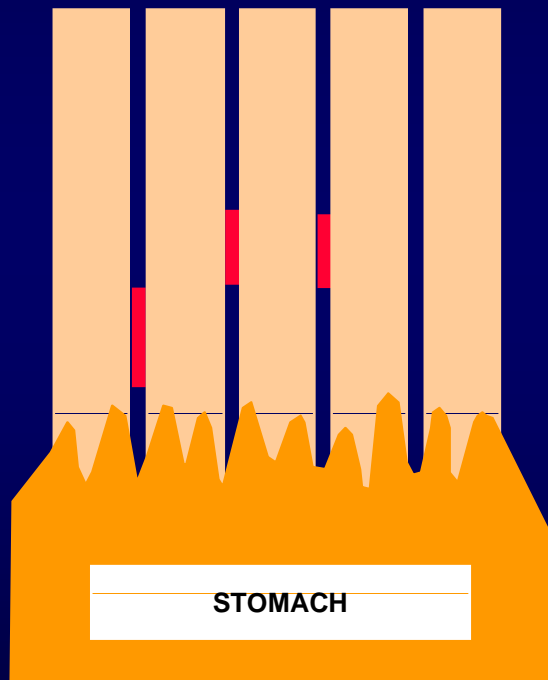


粘膜障害（明らかなびらん・潰瘍）が  
粘膜ひだに局限し、長径が5mmを超え  
ないもの



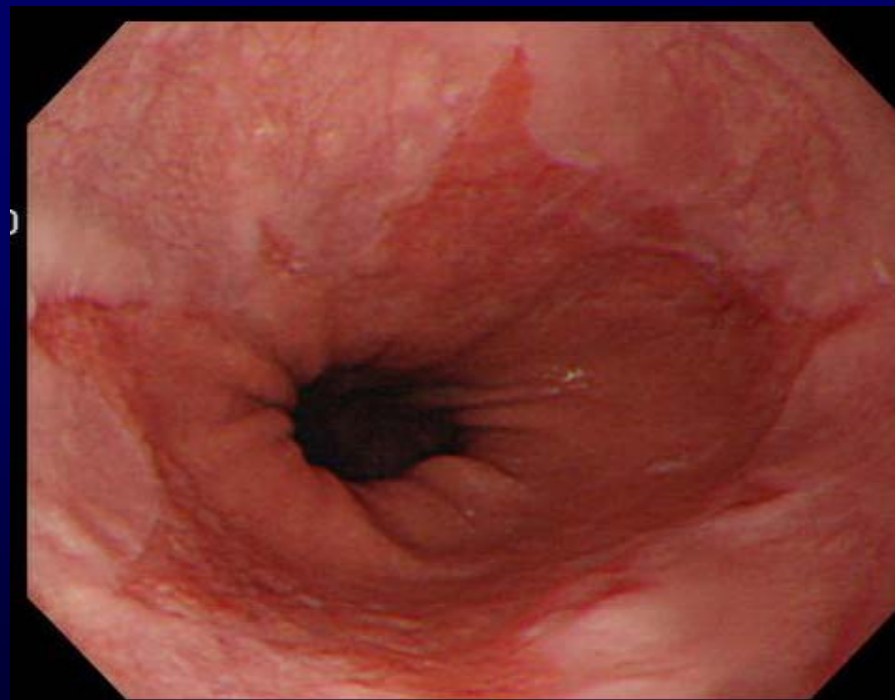
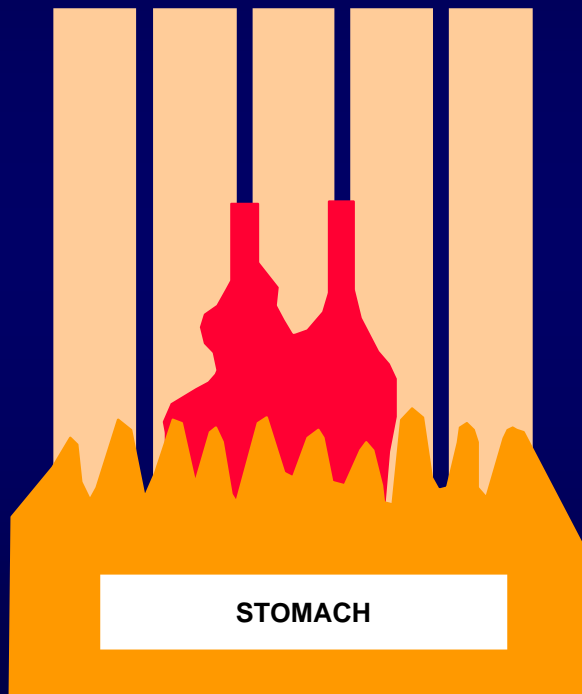
## Grade B

粘膜障害が粘膜ひだに限局し、長さが長径5mm以上のもので、相互に癒合しないもの

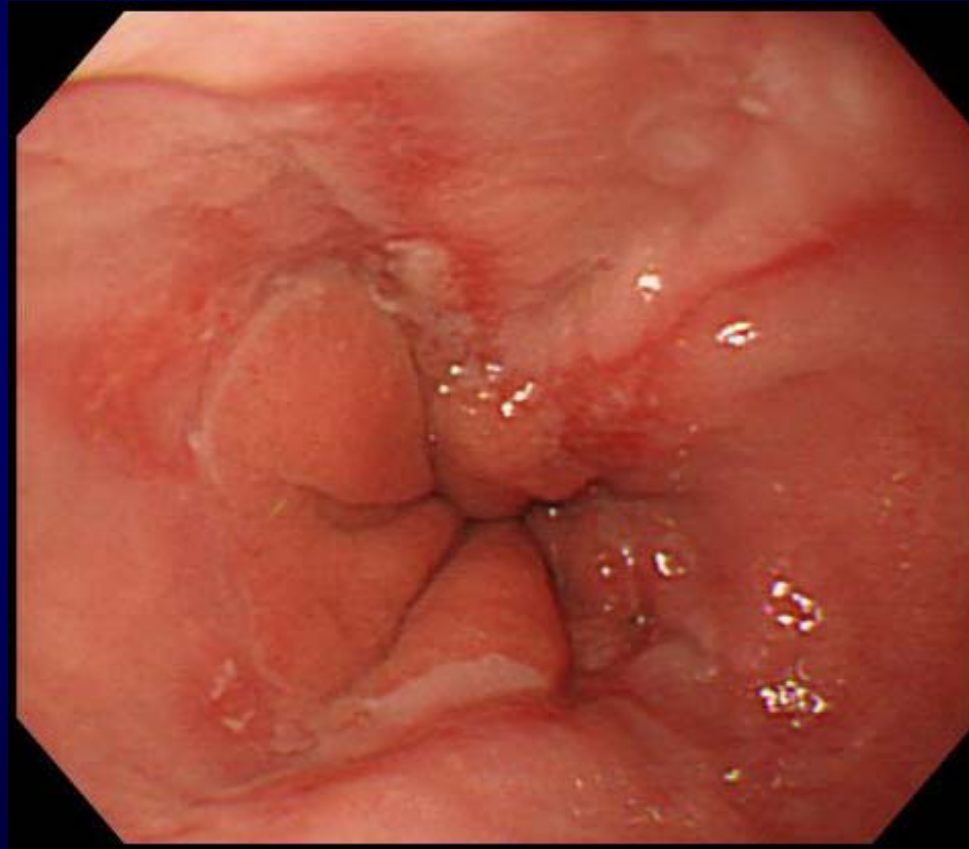


## Grade C

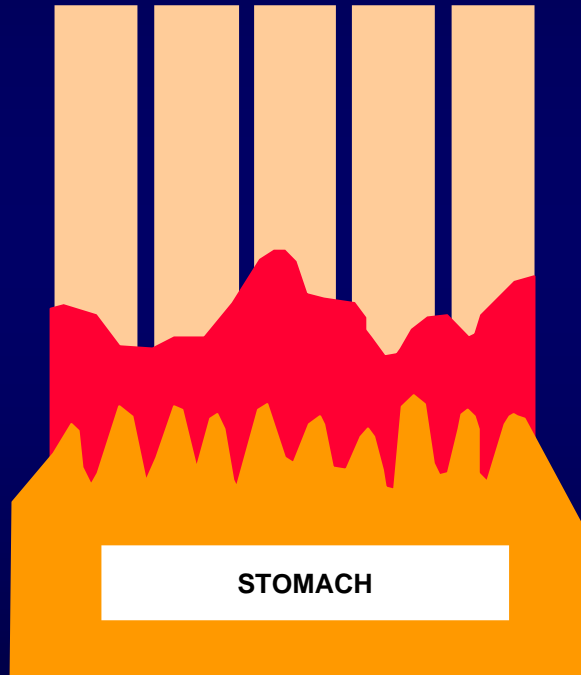
複数の粘膜ひだにまたがって癒合しているもので、全周の75%を超えないもの



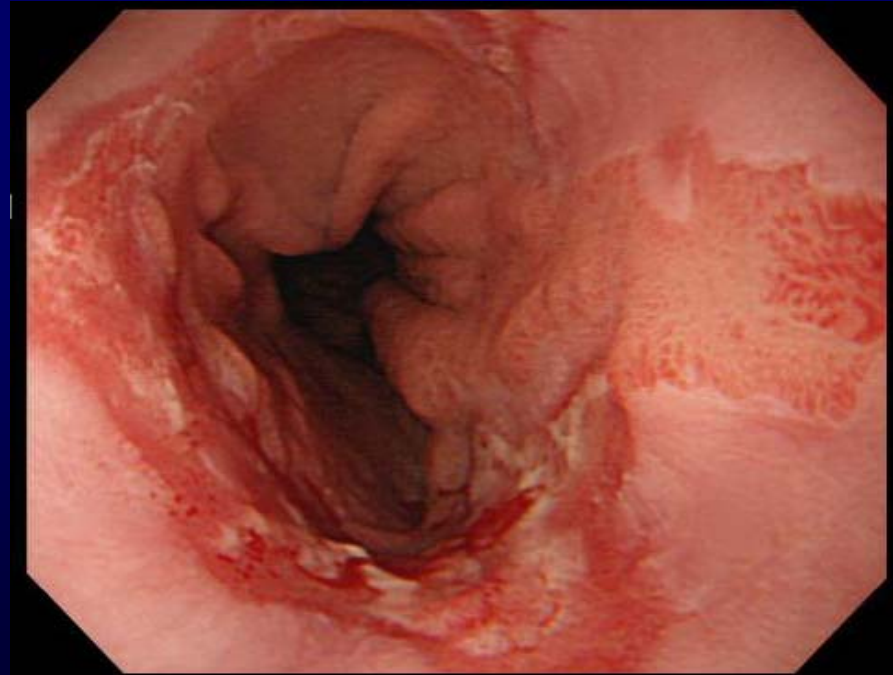
Grade C



## Grade D



癒合性病変で、全周の75%以上にまたがるもの



## 食道酸逆流の診断

GERDは必ずしも内視鏡所見を伴うとは限らない！



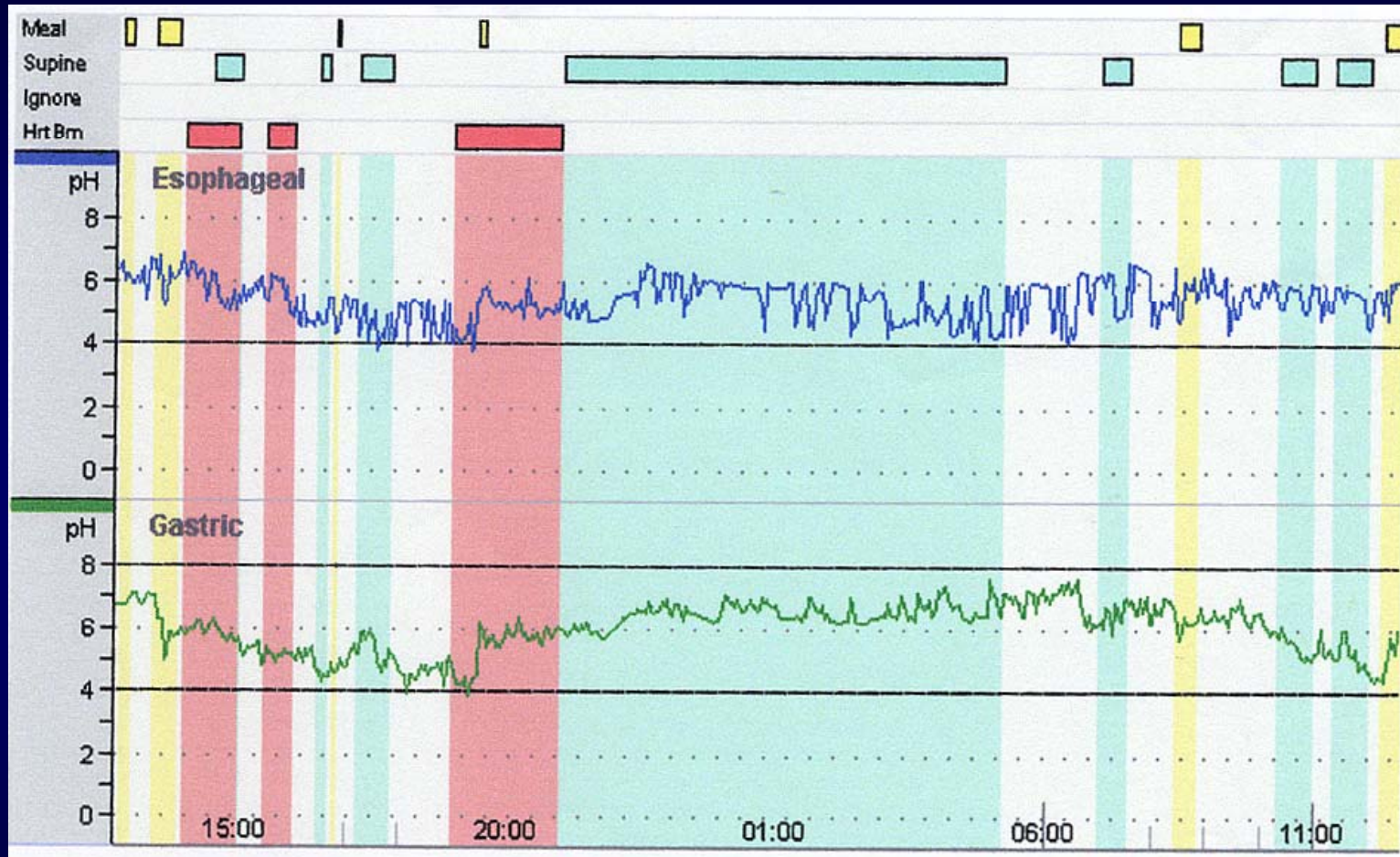
自覚症状が食道内への酸逆流であることを確認することが有用

a. PPI試験法

b. 24時間食道内pHモニタリング



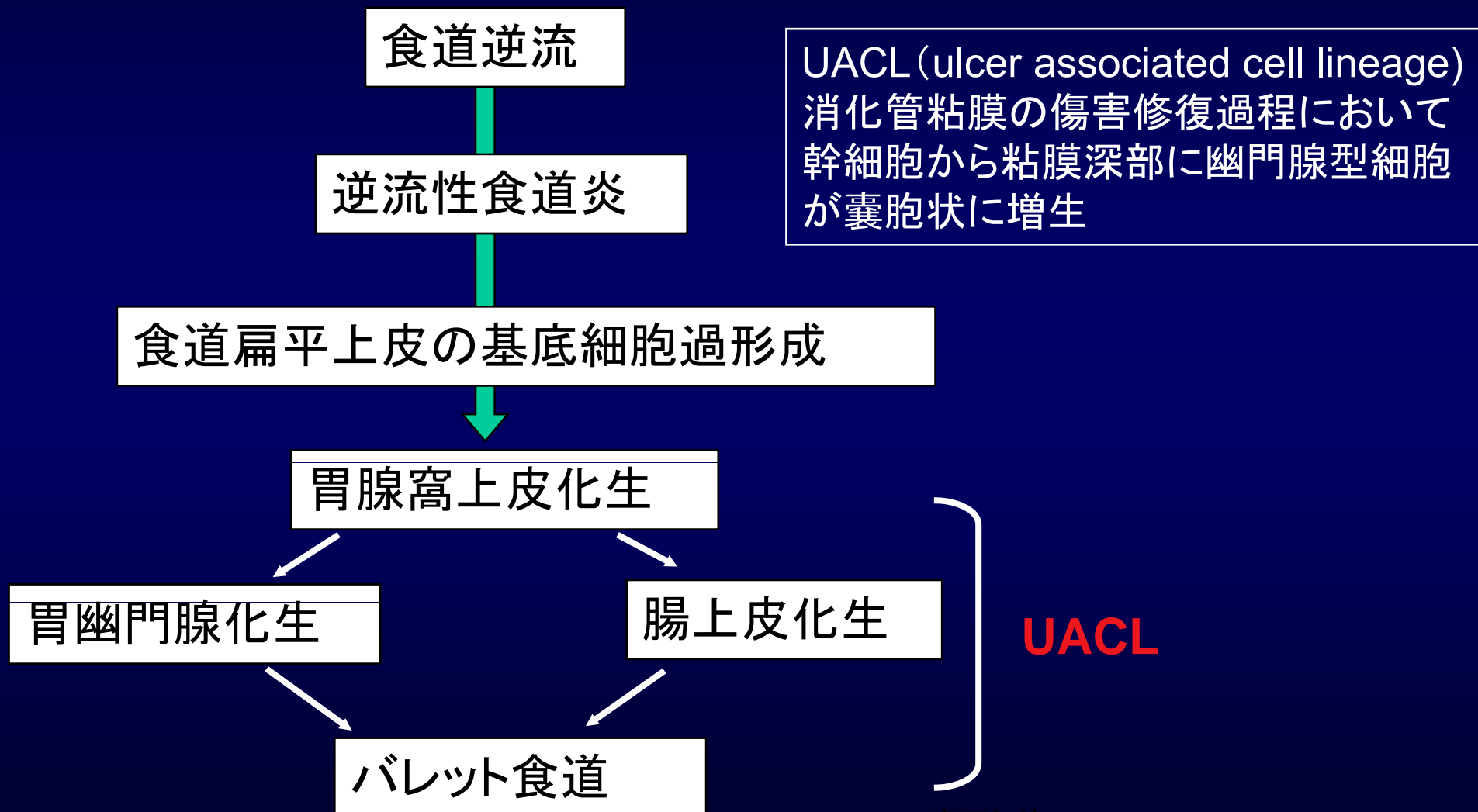
# 正常例



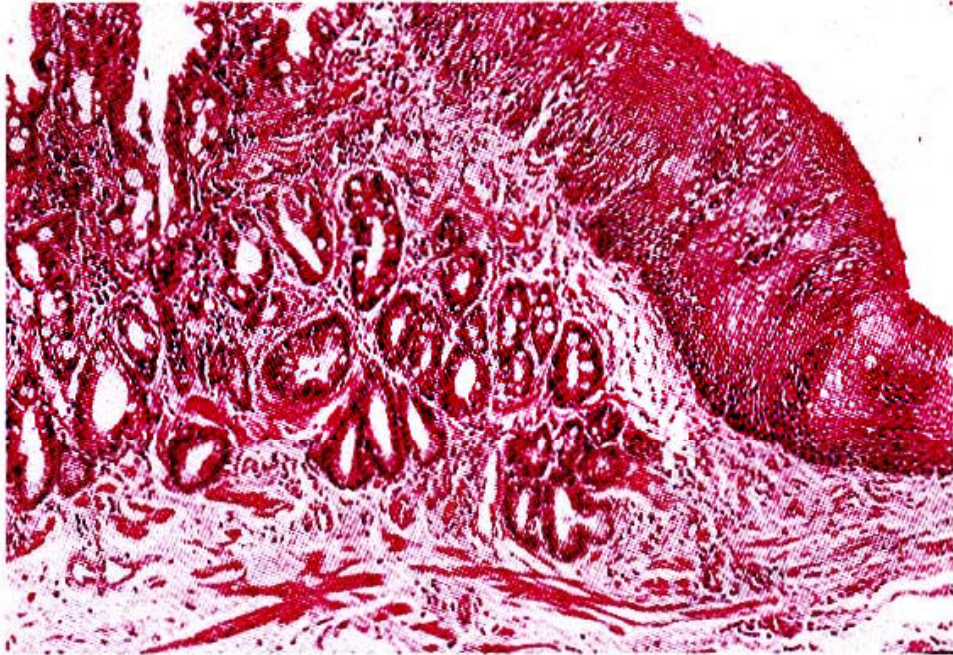
- |                      |      |              |    |
|----------------------|------|--------------|----|
| 1) pH<4 holding time | 0.1% | 3) 5分以上の逆流回数 | 0回 |
| 2) 総逆流回数             | 17回  | 4) 最長逆流時間    | 0分 |



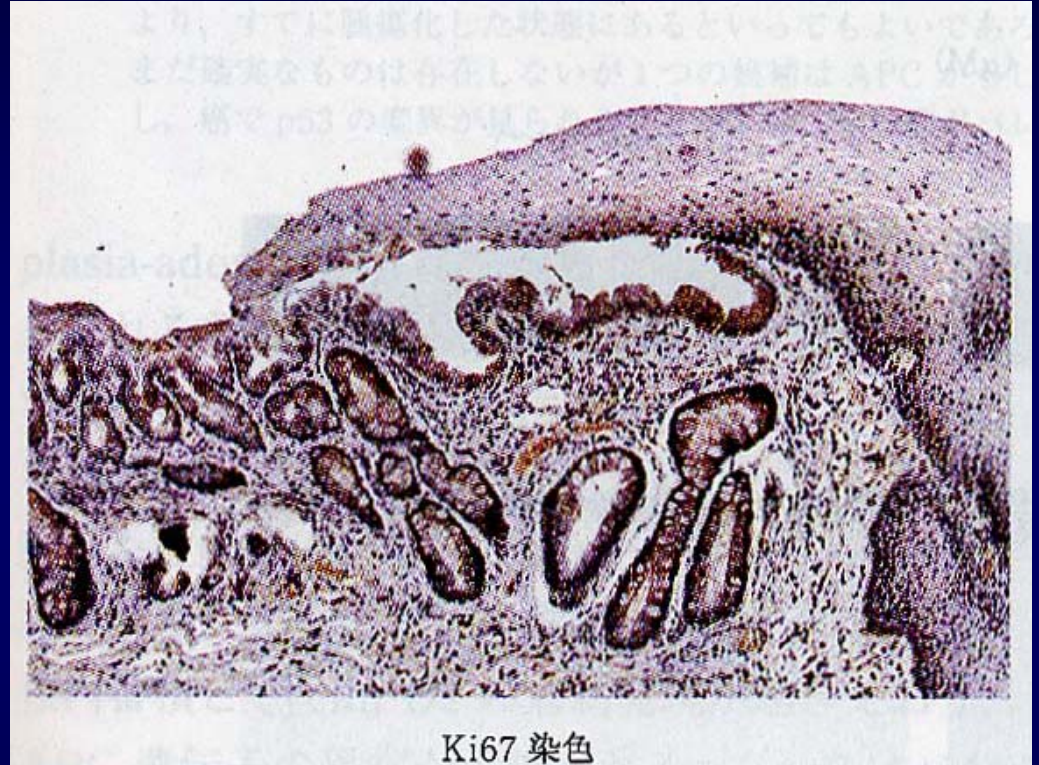
# 逆流性食道炎からBarrett食道へ



# Barrett食道先端部における二層性上皮構造



HE 染色



Ki67 染色

口側 →

口側 →

ki67染色により、特殊円柱上皮は高い増殖活性を示す

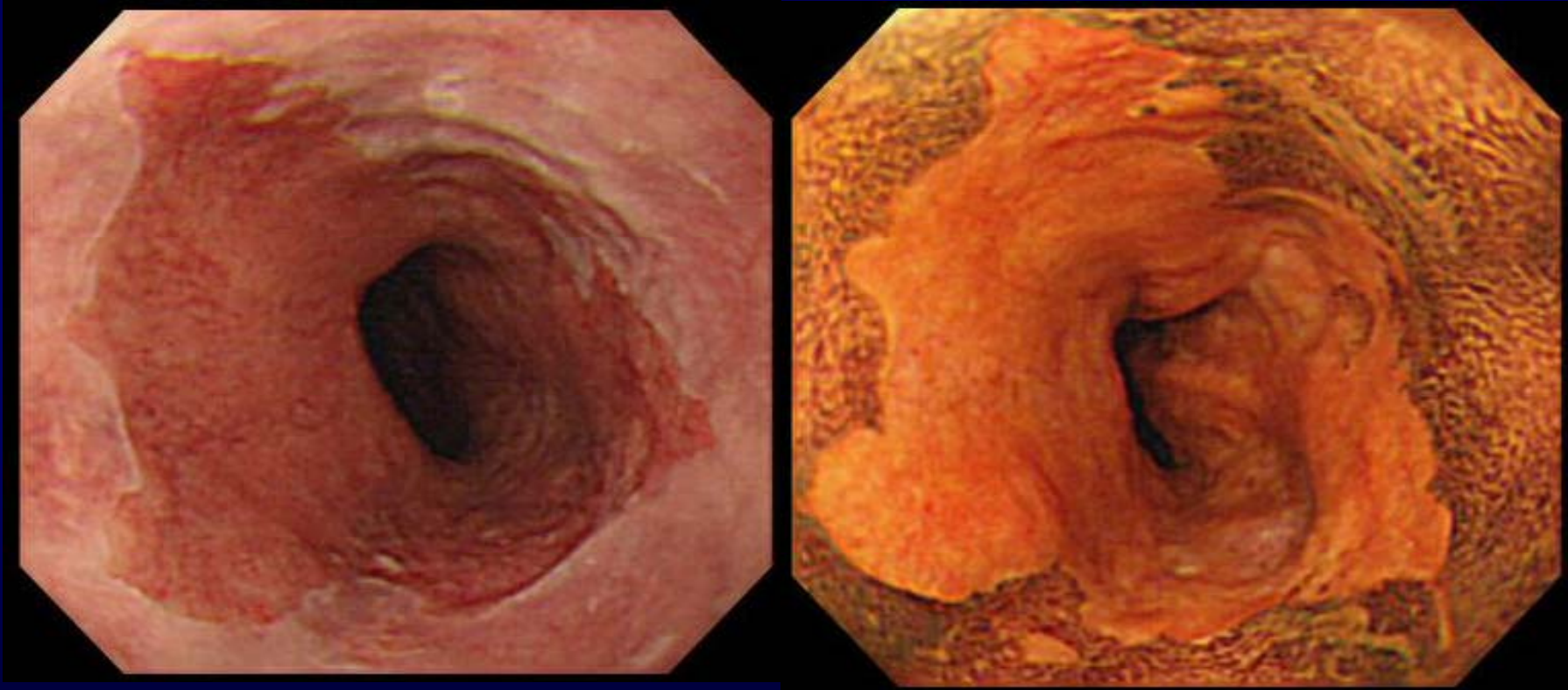
不完全腸上皮化生を示す特殊円柱上皮を高頻度に認める。これは重層扁平上皮下の粘膜固有層を分け入るように口側に進展する

## わが国におけるBarrett食道の頻度

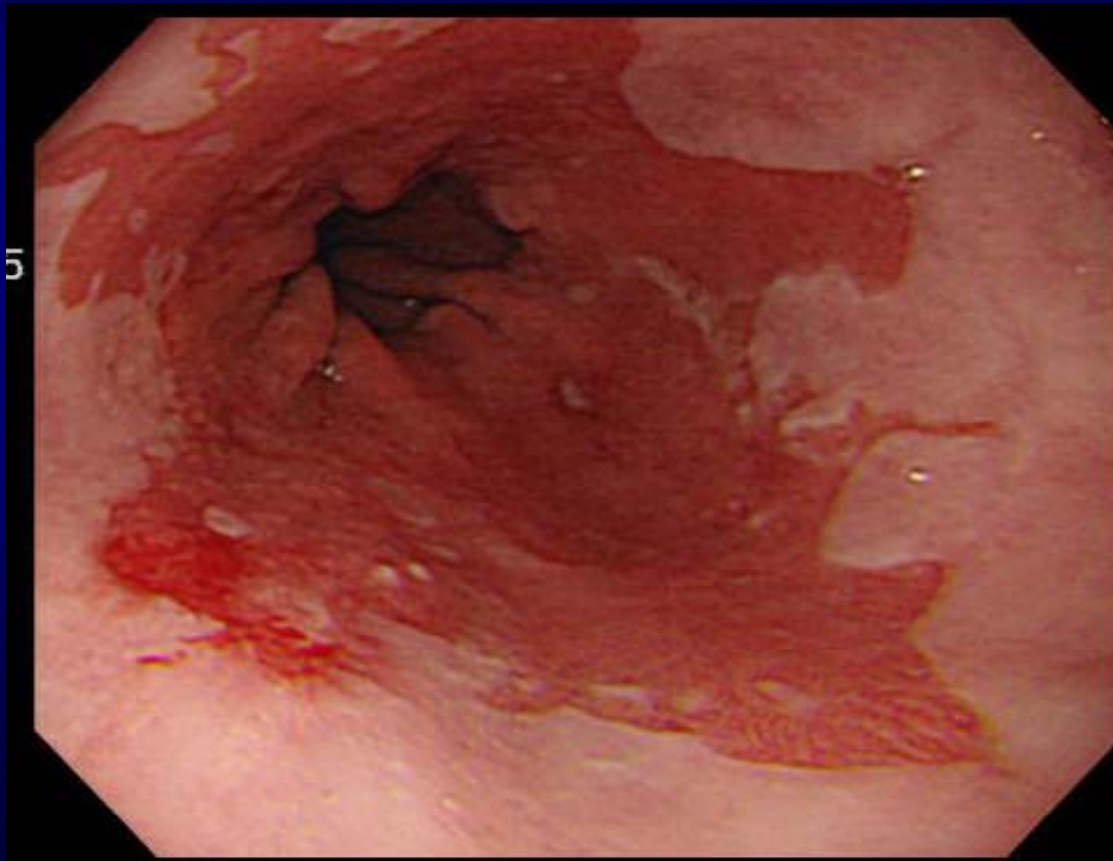
報告者	年度	症例数	LSBEの頻度	SSBEの頻度
熊谷ら	1985	1000	1.4%	6.2%
西ら	1977	657	0.3%	5.8%
星原ら	1999	9018	0.4%	31.9%
太田ら	2001	232	0.8%	6.8%



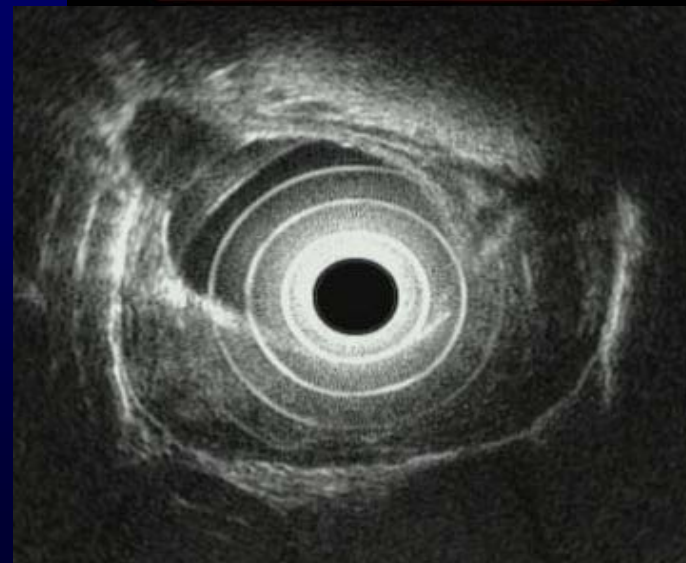
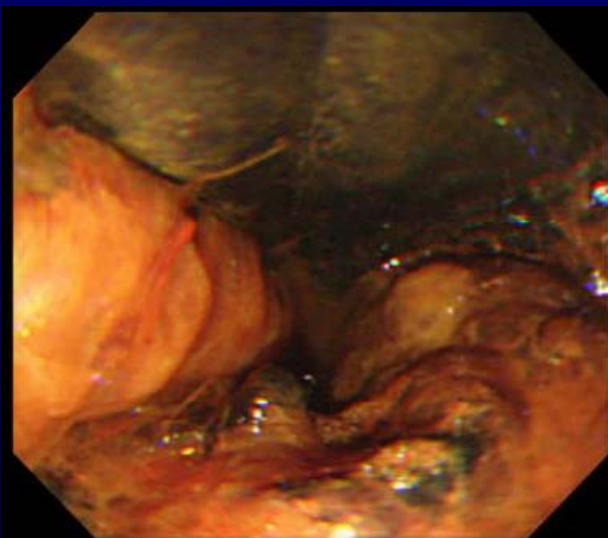
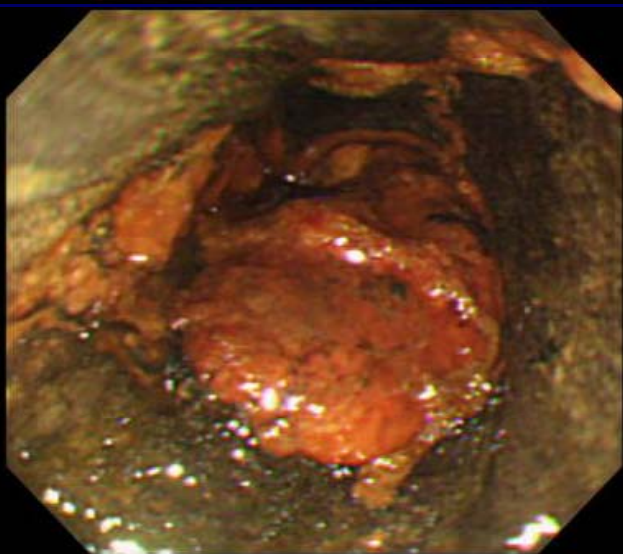
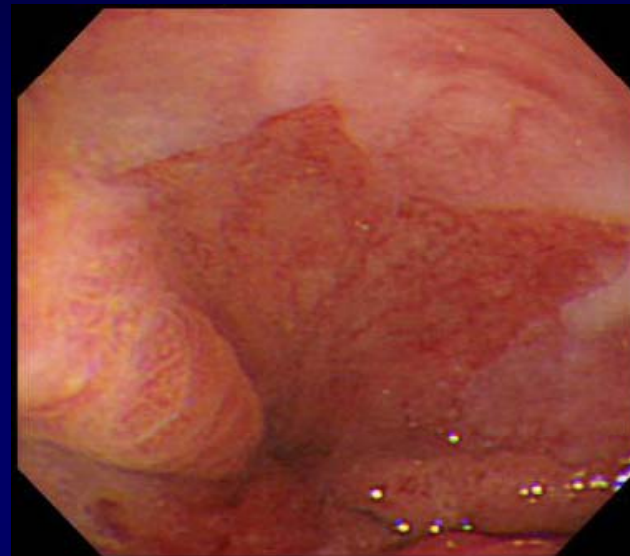
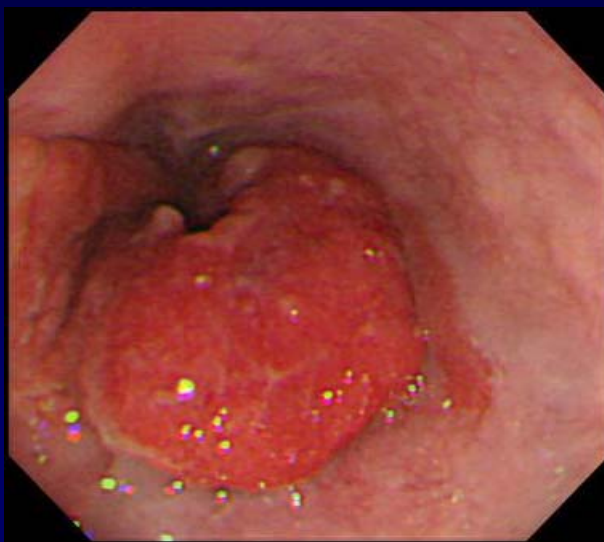
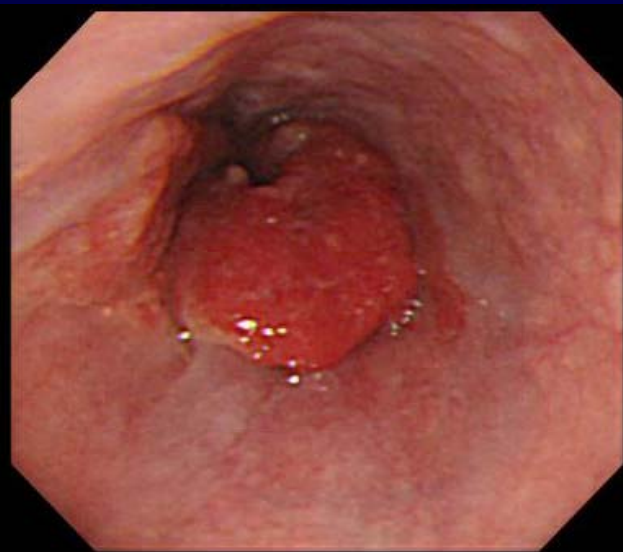
# SSBE



# LSBE



# Barrett腺癌

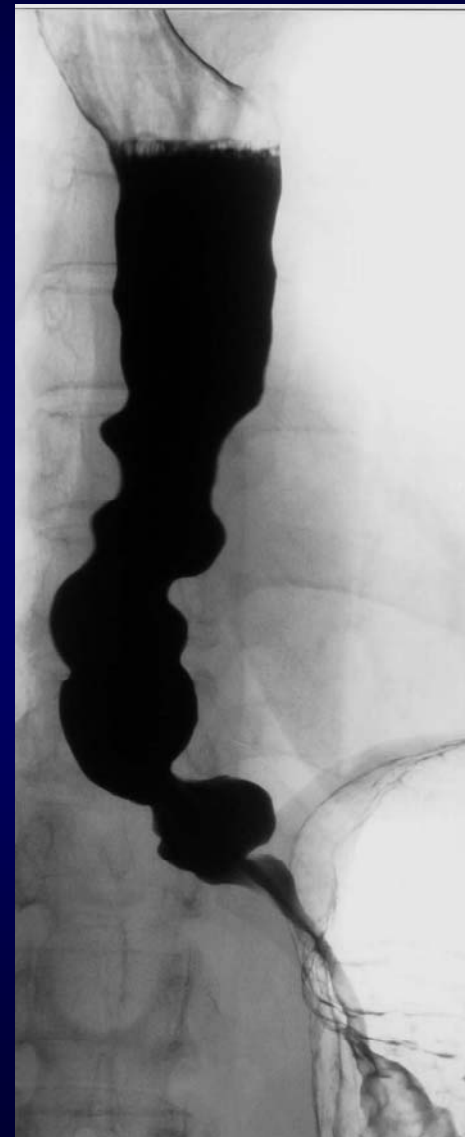




# 上部消化管内視鏡



# 食道X-P

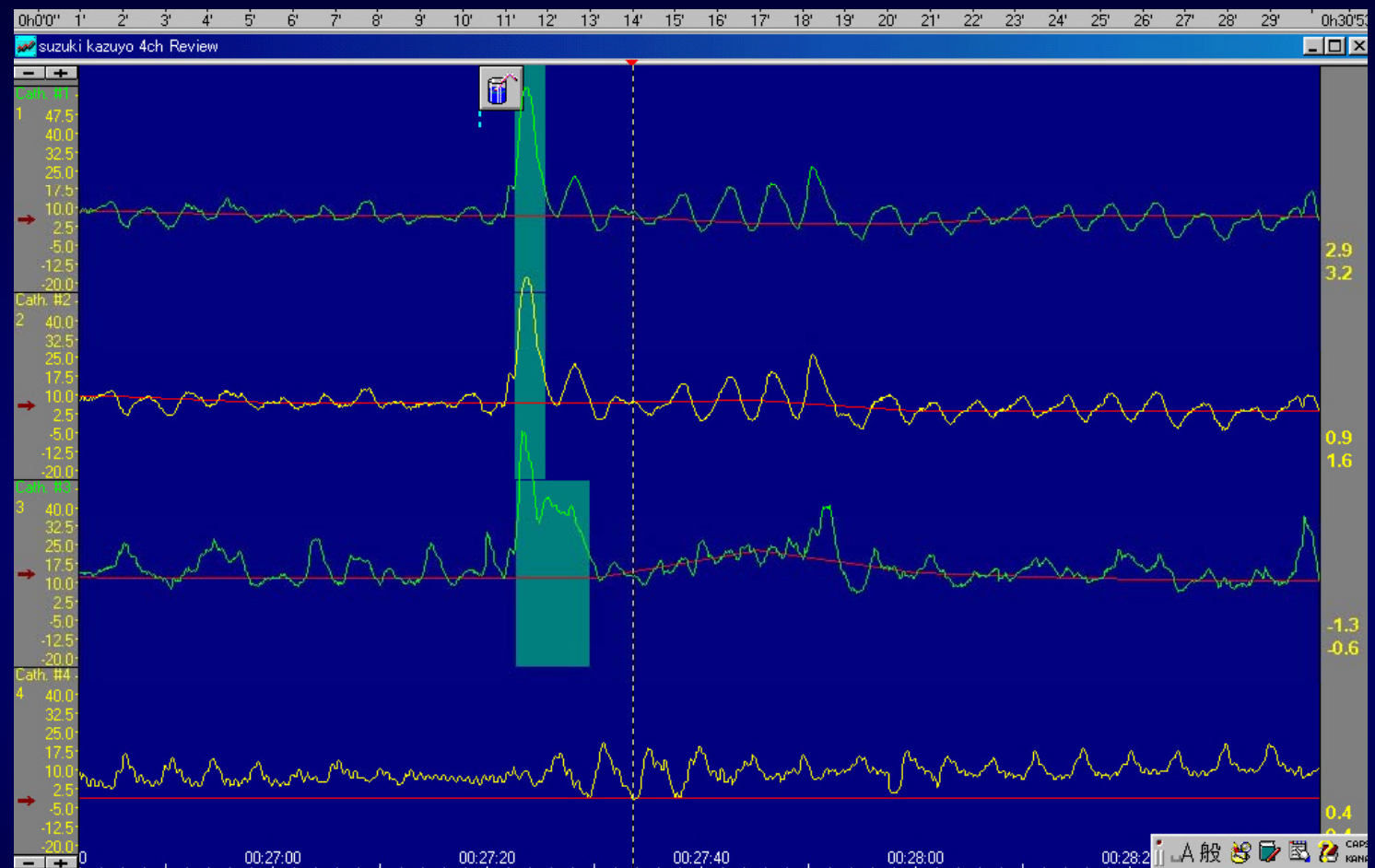


15cm above LES

10cm above LES

5cm above LES

LES



嚥下に関係なく、食道全体に同期性の収縮波を認める。